

## ■ 自然起源放射性物質

- 自然に存在する放射性核種を含み、それ以外の核種については有意な量を含まない物質
- 身の周りに広く存在。医療や工業，農業な



自然起源放射性物質の例：鉱山，肥料

## リスクソースのひとつ

放射線の利用を必ずしも意図せず  
人為的に放射能が高められ

- 想定外の被ばく
- 大量の廃棄物問題

## ■ 目的

**安全文化などの社会科学的な観点**を踏まえ、  
国際的に運用可能な**管理，廃棄の方策**の策定  
をすること

### A 自然起源放射性物質に関する放射能データの潜在する不確かさの検討

対象の物質の放射性核種の比放射能について確率論的手法での  
被ばく線量評価に必要な不確かさを含んだデータセットの作成

### B 放射能(Bq/kg)と被ばく線量(Sv)の相互関係の確率論的手法での解析

放射能 物量 密度  
含有核種 存在範囲 ...

自然起源放射性物質と被ばく線量の  
関係を表現

### C 国際的に運用可能な対策案の立案

放射能と  
被ばく線量の関係

規制科学  
リスクマネジメント

社会科学  
文化, 正義, 公平性

適用可能な現実的な  
対応策, 規制策の策定

## ■ 特色・独創的な点 放射線リスク評価を

確率論的手法を用いて解析する点

る点

## ■ 期待される貢献

- ✓ 存在範囲, 被ばく線量などに大きな幅を持つ自然起源放射性物質の線量評価が実現
- ✓ 国際的に運用可能な管理, 廃棄の方策の策定

さらに安全な放射性物質の利用が実現

## ■ 今後の計画

放射能データを活用し,  
B. 放射能と被ばく線量の相互関係の評価を進めていく.

